

【参考】わが国における青少年行政のあゆみ

1. 「非行防止」の時代（昭和中期）

戦後の社会混乱から経済復興への過程で少年犯罪が増加し、昭和24年に内閣官房に青少年問題対策協議会（※1）が設置される中、本県でも昭和29年に岩手県青少年問題協議会が設置される。

<関連施策> 刃物を持たない運動、スポーツの振興、少年補導員制度 など

※1 昭和25年に中央青少年問題協議会、昭和41年に青少年問題審議会に改組され、平成13年に中央省庁再編に併せて廃止

2. 「健全育成」の時代（昭和後期）

非行防止と併せて健全育成を推進していくため、昭和41年に青少年育成国民会議（※2）が結成され、本県でも同年に岩手県青少年育成県民会議が結成される。

<関連施策> 青少年健全育成施設の整備、青年の船事業、有害図書の指定 など

※2 平成21年に解散

3. 新たな時代（平成・令和期）

ゆとり教育の定着の中で少年犯罪が減少（※3）する一方、不登校児童生徒の増加、SNSによる犯罪被害、若年無業者の増加と高止まりなどの新たな課題が現れており、令和5年度にはこども家庭庁が発足するほか、本県ではネクジェネいわてによるエンパワーメントなども行われている。

※3 刑法犯少年の検挙人員（全国）は、平成元年の16.5万人から令和3年には1.5万人にまで大幅に減少

【参考】わが国におけるZ世代に関する言及（例）

<Z世代から選ばれるブランドになるには？>

Z世代と呼ばれるのは、1990年代後半～2010年に生まれた人たちだ。同世代は、**これまでの世代とは異なる価値観**を持つと言われている。例として、実際のZ世代の声をいくつか取り上げる。

- 学校の友達よりネットの友達のほうが本当の友達
- チームのキャプテンは、背中を見せるキャラよりも、いじられキャラだとくまくく
- 1番組30分もあるテレビ番組は長い
- 配属先保証、かつ副業OKじゃない企業には行きたくない

【電通若者研究部】

→ Z世代には、①**デジタルネイティブ**、②**タテよりもヨコの関係を重視**、③**タイムパフォーマンス重視**、④**労働面では開放型・ジョブ型志向が強い**といった特徴があるとすれば、若者が生きやすい（⇨転出抑制+転入促進につながる）地域社会とはどのようなものか。

<“Z世代”の価値観とは？若年層獲得戦略のいま>

- 人口が減っていく一方で、**若年層の獲得はどの業界においてもキーワード**
- **顧客生涯価値（ライフタイムバリュー）が高い**

【じゃらんリサーチセンター】

→ 民間業界では**Z世代のマーケティング**に躍起になっており、**商品・サービスの見直し**や**企業価値の再構築**など、**自らの変革を模索**している。人口減少局面の自治体ができるべきヒントは何か。